鳥海讃歌　　ＧＴＨ通信　第２９号　令和２年１１月２日（月）
校長室より

文武の道にいそしまむ

早いもので令和２年もあと２か月となりました。霊峰鳥海の白雪が、みなさんの心に安らぎと希望を与えてくれます。新型コロナウイルス感染症による「新しい生活様式」のなかで、仁賀保高校の「学び」について確認したいと思います。

今日は、本校校歌に登場する教育理念を表す「世の光なる人たらむ（１番）」「文武の道にいそしまむ（２番）」「母校の誉れ継ぎゆかむ（３番）」のうち、２番の歌詞に登場する「文武」両道のあり方についてお話いたします。

「文」からは「文学、文章、文系、高等学校の地図記号、文芸」等が連想できそうです。「武」からは「武道、武術、校歌の等を思い浮かべるのではいずれ部活動やボランティア活動等と定義しますと。「文」は授業を基本とし、すると巷で言われるのは、文武両道は「勉強と部活動の両立」。仁高生にも文武両道を目指して欲しいと思います。

さて、みなさんの中には勉強だけでも大変なのに、部活動やボランティア活動へ参加は難しいと思っている人もいるでしょう。「二兎を追うものは一兎をも得ず」が示すように、どちらかひとつのことに専心しないと、事は成就しないと考える人もいます。

しかし、仁高生のみなさんには、敢えてお願いします。「文武の道にいそしむ」を徹底してください。勉強も部活動も一生懸命頑張って欲しいのです。文武両道が導く先には、どちらともいい結果を出す事が求められていますが、「いそしむ（勤）」事は、自分で決心して、苦しくてもコツコツと継続して頑張ることと定義してください。

たとえ「いい結果」が出なくても、自分で決めた目標に向かって、バランスをとりながらやりとおす「プロセス」が大切です。学校では、一人ひとりが意欲を出して、自分との約束を果たすために頑張る経験こそが必要なのです。教職員は、覚悟を決めて必死に「いそしむ」仁高生を、親身になって支援して行きます。

『インプット（input）したことが、アウトプット（output）できてはじめて、知識や知恵として自分の中に残り、生きる力になる！』

仁高生のみなさん、授業や様々な活動から学んだ知識や方法は、自分なりに表現（書いたり、話したり、発表したり、作成・作製したり）してこそ、初めて自分の身につくものです。さらに、表現したことで誰かの役に立つことがあれば、学んで得た知識や知恵の価値が高まるのです。

情報メディア科の生徒は、プログラミング学習を始めた小学生に、先生役として教える機会に恵まれました。普段先生方から教わって学んだ知識や技能を、小学生にわかりやすく教えるためには、どうすればよいでしょうか？

まずは自分の小学校時代を思い出し、教わる側に寄り添って、わかりやすい言葉を使ったり、丁寧に指導をすることを心がけます。教えることで、自分が学んだ事が確認できます。教えるこやや試す事が前提のインプット学習がなくなります。時には、疑問点や不明点が残ると、アウトプット学習に自信が持てません。しっかりと友達に小学生役にな ても ら い、模擬授業にトライしてみてはどうでしょうか？

みなさんには、メディア科の挑戦例を参考にして、アウトプットを意識した授業への参加と、学んだ知識や技能・技術の活用を切に願っています。今年度の仁賀保高校のキーワード、「トライアル＆エラー」の実践に期待しています。

★ **アイコンタクツ（ｉcon ｔ act２）**を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
★ **メモ**をとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
★ **意識力**＝意思・意志（瞬間）＋気力（持続）です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたこと を継続してやり抜きましょう。
★ **ＧＴＨ**は、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
★ **「自己有用感」**を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか?
自分が誰かの役にたつためには、**感謝**の心と**自己肯定感**を持つことが大切です！
★ **ＮＰＴ**は仁賀保高校プログラミング思考の略称です。ＮＰＴを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、**Trial＆Error**で進めましょう！